

評価項目	重点目標	具体的な取り組み	主担当	実態(課題)	目指す姿	評価の達成度判断基準	判定	根拠となる資料	分析(成果と課題)及び改善策
確かな学力	①校内研修体制の確立	・月に一度の校内研修会の実施。 ・校内研究推進委員会の開催。 ・模擬授業と授業研究の実施。 ・指導主事計画訪問(6月) ・校内サポート研修。 ・指導主事要請訪問(10月) ・一年間のまとめ。	研究主任	・算数科における言語活動の工夫をし、基礎的な知識・技能の習得と活用する力を伸ばす。	・どの学年の授業も児童が既習事項を活用して、意欲的に算数の授業に取り組むことができる。	A どの授業も分かりやすく、充実した授業である。 B 分かりやすく、充実した授業が多い。 C 分かりやすく、充実した授業が半分程度である。 D 分かりやすい授業が少ない。	A	(児)学習は楽しい100%、勉強はよくわかる98%(肯定評価)。(保)子ども達の学力向上のために努力している100%、わかりやすい授業をしている85%(肯定評価)。	児童アンケートから、授業がわかりやすく感じ、楽しく学習に取り組んでいることがわかる。一方、保護者からは、更に分かりやすい授業を望む意見もあった。さらに校内研修の充実をはかり、学力向上を目指す。
	②家庭学習の習慣化	・家庭学習時間調査(1週間)。 ・個に応じた学習指導。 ・学習の手引きの配布。 ・ノーゲームデーの実施。	研究主任	・家庭学習の習慣化と家庭学習の質の向上を図る。(一部に習慣が付いていない児童がいる。一人勉強の内容に不十分さがある。)	・低学年20分、中学年40分、高学年60分の家庭学習が習慣化している。 ・宿題の他に8割以上の子が意欲的に一人勉強に取り組んでいる。(読書を含む)	A 家庭学習を毎日自主的に行っている。 B 家庭学習が習慣化している児童が多い。 C 家庭学習が習慣化している児童は半数程度である。 D 家庭学習が習慣化している児童が少ない。	B	家庭学習時間調査(2月)で、全学年が目標を達成した。(内)B評価8割。	家庭学習時間の平均をとると学年毎の目標は概ね達成しているものの個人差があること、質的な充実をはかるため、良いノートの書き方を指導したり、他校の例を参考にしたりした。
	③学力調査等の活用	・西小タイム(計算、言語活動)の実施。 ・学習カルテの書き込み。 ・通知表C評価の児童への個別指導。 ・県、国学力調査を考察し、指導に生かす。 ・計算スキルタイムの実施。 ・過去問題への取組。	教務主任	・学力に個人差があり、学年に応じた学力が定着していない児童もいる。	・学年に応じた学力が身につけている。	A 通過率が低い分野の指導改善を行っている。 B 教科によっては、指導改善を行っている。 C 指導改善を全体の半分程度行っている。 D 改善はあまり行っていない。	A	(内)前期A評価が6割から8割に、またB評価が4割から2割となった。	各種学力調査の結果を分析し、指導改善に活かしている。西小タイムや計算カスキルアップタイムなどを全校を上げて取り組んだ。更に新たな試みとして、全校テスト(算数、漢字)の実施に関して、全学年、事前・事後で基礎学力向上に努めた。
豊かな心	④あいさつや言葉遣い	・児童会による朝のあいさつ運動。 ・家庭や地域でのあいさつの励行。 ・グッドマナーキャンペーンの実施。	生徒指導主事	・決まった時間と場所ではあいさつするが、状況が変わるとあいさつできない児童がいる。	・時と場所に応じて進んであいさつのできる児童になる。 ・正しい言葉遣いや相手を思いやる言葉かけができる。	A はっきりと、適切な言葉遣いや挨拶ができる。 B 適切な言葉遣いや挨拶ができる児童が多い。 C 身につけているが、声の大きさなど問題点がある。 D まだ適切な言葉遣いや挨拶ができない児童が多い。	B	(保)家庭で挨拶や返事がしうりできる90%(肯定評価)。(内)B評価7割、C評価2割。	保護者アンケートからは挨拶、返事が良いという回答の割合が高かった(9割)。一方、場面に応じた言葉遣い等に課題があるため、来校者に対するあいさつの練習などに取り組んだ。
	⑤ボランティア・掃除活動	・海岸清掃活動。 ・毎日の掃除の時間(縦割り班)。 ・老人ホーム訪問。	清掃指導	・学校行事としてのボランティア活動には参加している。 ・決められた時間内の掃除はきちんとする。	・自ら進んでボランティア活動に参加しようとする。 ・日頃から学校の美化に努め、掃除の時間は掃除に集中して取り組む。	A 日頃から、自ら進んで清掃活動をしている。 B 時間中は、自ら進んで清掃活動をしている。 C 自分の係の範囲で清掃活動をしている。 D 指示をされて清掃活動をしている。	A	(観察)清掃時間中や時間以外でも進んで清掃をしている様子は良好。	きめられた時間の清掃に限らず、トイレのスリッパを揃えることや学習室の整頓を進んで行う。自分たちが過ごしやすい学校環境作りにも自然と取り組んでいる。
	⑥読書活動の充実	・図書委員会からの働きかけ。 ・お話会の実施(毎月2回図書ボランティア) ・読書冊数調査。 ・親子読書の呼びかけ。	読書指導	・ほとんどの児童は読書を好むが、一部落ち着いて読書できない児童もいる。	・読書冊数を更に伸ばし、読み聞かせ活動の充実により、読書の習慣をつける。	A ほぼ全員が学年に応じた読書に取り組んでいる。 B 学年に応じた読書活動に取り組む児童が多い。 C 読書に集中できない児童が数人見られる。 D 読書に取り組まない児童が多い。	A	図書貸出しデータから、全児童平均71冊(1月末時点)。	図書室の利用、図書の貸し出しが盛んである。図書の充実にも努め、読書の習慣を大切にする。
	⑦きめ細やかな生徒指導	・生徒指導委員会。 ・いじめ対応アドバイザー派遣事業。 ・いじめ問題対策チーム力向上研修。 ・いじめに関するアンケートの実施。	生徒指導主事	・いじめや不登校はないが、児童間のトラブルは時々ある。	・いじめの早期発見・早期対応・未然防止に全力を注ぐ。	A 温かな人間関係の中で学級活動が行われている。 B 人間関係は、ほぼ良好である。 C 人間関係に問題のある児童が数人見られる。 D 全体のまとまりがない。	A	いじめアンケートからいじめの認知件数0件。	学期に1回はいじめアンケートを実施している。件数は0件。今後とも未然防止、早期発見、早期対応に努める。
たくましい体	⑧体力向上プラン	・年間を通して週3回3分間走に取り組む。 ・体力テストの実施。 ・スポチャレへの取組。 ・いしかわっ子チャレンジ持久走への取組。 ・校内マラソン大会。	体力向上担当	・体力はついてきているが、種目に応じた筋力や俊敏性に課題がある。	・90%以上の児童が体育が楽しいと答える。 ・週に3日以上自主的に運動しようとする。	A 体力づくりに十分努力している。 B 体力づくりにおおむね努力している。 C 体力づくりにどころかという努力していない。 D 体力づくりにほとんど努力していない。	B	(保)体力向上に努力している91%。(内)A評価が前期3割から6割に上昇した。	週に3回の3分間走を継続して行っている。スポチャレ、体力テストの結果から見て、もっと体力づくりに取り組む必要性があると考え、なわとびや鉄棒の取組も行った。
	⑨健康教育・安全教育	・地震、津波避難訓練の実施。 ・不審者対策避難訓練の実施。 ・虫歯予防指導、水難事故防止指導。 ・交通安全教室。 ・火事避難訓練の実施。 ・目を大切に、運動時の安全。 ・積雪時の生活について。	教頭	・大きな事故は起こっていない。	・個々の児童が基本的な危機回避能力を身につけている。	A 日常生活に於いて全く病院にかかっていない。 B 年間を通じ、4～5回病院にかかっている。 C 月平均1～2回病院にかかっている。 D 頻繁に病院へかかっている。	B	(保健室記録)保健室の利用が10.6件/週。	日本スポーツ振興センターへの請求件数が6件あった。保健室をよく利用する特定の児童が数名いる。様々な安全対策を施していく。
学校開かれた 学校づくり	⑩地域の教育力の活用	・地域の人材を活かした行事の実施。 ・サツマイモ苗植え・掘り集会。 ・公民館宿泊登校。 ・公民館行事への参加。	教務主任	・地域の教育力が強く、学校に協力的である。	・学校の教育活動に保護者、地域の方達が協力してくれる。	A 地域行事や公民館行事が十分できている。 B 地域行事や公民館行事が概ねできている。 C 地域行事や公民館行事があまりできていない。 D 地域行事や公民館行事ができていない。	A	(内)A評価8割。	地域行事、公民館行事共に盛んで、子ども達の学校以外での学びの場を設けていただいている。子ども達も積極的に参加し、いろいろな体験活動ができている。
	⑪地域・保護者・関係機関との連携	・年2回の学校公開。 ・年4回の授業参観。 ・PTA行事の実施。 ・社会体育大会。 ・学校ホームページの更新、学年・保健・学校便りの発行。	教頭	・地域ボランティアや保護者、関係機関からの協力を得ている。	・地域・保護者・関係機関と密接なつながりが継続される。	A 地域、保護者の方々は教育活動に満足している。 B 地域、保護者の方々は教育活動にほぼ満足している。 C 地域、保護者の方々は教育活動にあまり満足していない。 D 地域、保護者の方々は教育活動に不満がある。	B	(保)授業参観、PTA行事に出席している97%。学校やPTA活動に対する要望が数件ある。	地域、保護者、関係者には学校行事に対してほぼ100%の参加率で協力をいただいている。一方で、活動に対する意見や学校に対する要望等もあり、今後具体的な対応を練っていく必要がある。
学組織的 運営	⑫組織体制の確立	・毎月1回の主任会議 ・毎週月曜日に校長、教頭、教務主任による連絡会。 ・各種推進委員会の定期的な実施。	教務主任	・主任の一層の機能化と組織の活性化。	・教頭と教務が中心となって各主任が学校運営に対する強い参画意識をもっている。	A 組織的な学校運営が十分できている。 B 組織的な学校運営が概ねできている。 C 組織的な学校運営があまりできていない。 D 組織的な学校運営ができていない。	A	(内)A評価8割。	定期的な会議等は各担当が概ね参画意識を持って学校運営に携わっている。さらに、組織体制の確立をはかる必要がある。
	⑬学校評価	・学校評価書の作成。 ・各種アンケートの実施。 ・学校評議員会の開催と説明。 ・自己評価と学校関係者評価の実施。	教頭	・学校経営方針の具現化をめざし、教育活動の改善を図っている。	・中間評価と最終評価を実施し、充実した教育活動がなされている。	A 学校経営方針の具現化をめざす学校評価となっている。 B 計画的に見通しを持った学校評価となっている。 C 学校評価が教育活動にあまり活かされていない。 D 学校評価が教育活動に活かされていない。	B	(内)A評価4割。B評価6割から。	学校評価に関する年間計画が確立されていない。評価システムの整理と学校経営方針の具現化に直結する学校評価となるよう工夫する。

(児)児童アンケート、(保)保護者アンケート、(内)内部アンケート

学校関係者評価	子ども達はたくましく成長している。行儀も良くなっているようだ。一方で、一部に言葉遣いの気になる子も見られる。保護者と地域と学校が連携し、時には苦言も必要である。地区の行事等を通して子ども達の心に残る取組があればいい。具体的なものを考えればどうか。⑩がC評価であったが、どの項目も中間から最終にかけて努力の跡が見られるのだから、B評価とすれば良い。学校や地域が一つになって盛り上がる取組を期待する。	学校関係者評価を受けての対策	学校においても日頃から正しいあいさつや場に応じた言葉遣いができるよう指導を継続する。少人数の特性を生かして、児童同士の思いやりの心や外部の方々との接し方を指導していく。また、地域・保護者とも連携し子ども達の健やかな成長を見守る。これまで地域で行われていた行事等を参考にすることで、全校あげての活動ができないか検討していく。地域の中心にある風通しのよい学校となり、学校と地域が手を取り合って活動し、門前西小学校の子ども達が確かな学力を身につけるとともに、思いやりの心を大切にして健やかな成長を遂げるよう努力する。
---------	--	----------------	---